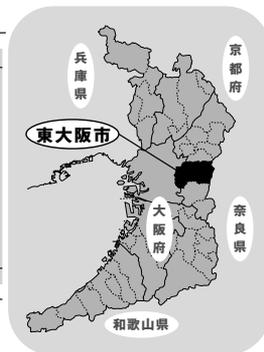


わたしのまちのPR

ピーアール

東大阪市編



東大阪市は、河内平野のほぼ中央部に位置し、西は大阪市、南は八尾市、北は大東市と接し、東は生駒山系で奈良県と境を接しています。市域の多くは平坦な低地をなしており、また、生駒山麓の豊かな自然が残っています。

市内には、大阪中央環状線や国道170号（大阪外環状線）、国道308号（中央大通）などの主要幹線道路が縦横に走っています。また、地下鉄中央線、近鉄けいはんな線、近鉄奈良線、近鉄大阪線、JR学研都市線が通るなど交通の便にも恵まれています。昨年3月には、JRおおさか東線が開業するなど、ますます便利となる交通インフラの整備を背景に、更なる飛躍が期待されています。

この東大阪市の魅力や特色について、経営企画部政策推進室次長の河内さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが、東大阪市の歴史を教えてくださいませんか。

よろしくお願いいたします。

本市の歴史は、数万年前の旧石器時代にまでさかのぼります。つづく縄文時代、当時の市域の大部分は海で、山麓から当時のムラの跡が見つかっています。弥生、古墳時代には、生駒山麓を中心として100以上の集落がつくられました。平安時代以後は、生駒山の山中などに往生院や興法寺、慈光寺などが栄え、南北朝時代には南朝方の拠点となるほど注目を集めました。

江戸時代には、大和川の付替え工事が行われ、旧

川床での木綿栽培が盛んになり、河内木綿の産地としても有名になりました。明治時代に入り、数度の合併を経て、昭和42年2月1日に布施市、河内市、枚岡市の3市が合併して、現在の東大阪市の誕生しました。平成17年には中核市に移行し、更なる行政サービスの向上に取り組んでいます。

この中核市移行を機会に、『東大阪イメージソング～東大阪めっちゃ元気な「まち」やねん～』を制作しました。詞は全国から公募し、本市出身の音楽プロデューサー・つくみさんに作曲いただきました。ゆったりとしたテンポで、子供からお年寄りまでうたいやすい曲になっています。本市のホームページからダウンロード・視聴ができますので、是非、一度お聞きください。

東大阪市の魅力を教えてくださいませんか。

本市は、地場産業を基盤にバイタリテイあふれる中小企業を多数有する「モノづくりのまち」であり、ラグビーの花園ラグビー場がある「ラグビーのまち」でもあるなど、様々な顔を持っています。この多様性こそが本市の魅力であると考えています。

まずは、「文化歴史のまち」としての本市を紹介します。本市は多くの歴史遺産を有しており、その代表的なものとして「鴻池新田会所」があります。

鴻池新田会所



先ほどもお話ししましたが、この東大阪では、江戸時代に氾濫を繰り返していた大和川の付替えに伴い、新田開発が積極的に進められました。このうち最大の広さを誇ったのが、豪商鴻池家が開発した鴻池新田です。鴻池新田会所は、この広大な鴻池新田の管理・運営を行った施設です。10,662m²の会所には、本屋、蔵のほか、長屋門、居宅、朝日社、周濠などの伝統的な建物群と庭園が残されています。

昭和51年に国の史跡指定を受け、昭和55年には、本屋や屋敷蔵、文書蔵などの建物も国の重要文化財の指定を受けました。また、生駒山を借景に、江戸末期の回遊式庭園は樹林の緑や池、橋などが一幅の絵をなしており、大阪府みどりの百選にも選定されています。

昭和62年から行ってきた解体修理が平成7年に完成し、平成9年からは一般公開されています。当時の雰囲気をお楽しみください。

庭園



素敵な庭園ですね。

文化のまちとしての代表的な施設が、司馬遼太郎記念館です。平成8年に急逝した司馬遼太郎氏の精神を後世に伝えるとともに、文化を共有し、できるだけ多くの皆さんとともに育てていくという観点から開設されました。

記念館は、司馬氏の自宅と建築家安藤忠雄氏の設計による建物から構成されています。安藤氏は、「蔵書で囲われて、闇に包み込まれたような、かすかな光の空間のイメージ」を原点に、周辺環境とも調和するよう設計されたそうです。施設内には、高さ11メートルの壁面に約3,400の書棚が張り付く大書架があり、約2万冊の蔵書が収められています。ま

司馬遼太郎記念館（写真提供・司馬遼太郎記念財団）



た、司馬氏の作品を様々な角度から取り上げる企画展の開催、150余席のホールでの映像の上映、講演会や独自の音楽会なども催しています。ふれあいの輪を大切に、新しい文化のネットワークが広がることを願っています。

「モノづくりのまち」としての東大阪市の魅力を教えてもらえますか。

はい。本市は、全国的にも中小企業のまちとして知られ、世界有数の製造技術をもつ企業が多数集まっています。こうした本市のモノづくりのまちの拠点となるのが、平成15年にオープンした「クリエイション・コア東大阪」です。

優れた技術や製品の情報発信を行うとともにモノづくりに関する総合支援センターとしての役割を担う北館と、産学官連携を核とした新事業創出センター等の役割を担う南館の2棟からなっています。約200ブースの優れた技術や製品を、実物やパネルで展示する常設展示場や、新事業の創出などを目指すベンチャー企業に対して、大学との連携をサポートするインキュベートルームなどを設置しており、モノづくりに関する総合的な支援を行っています。

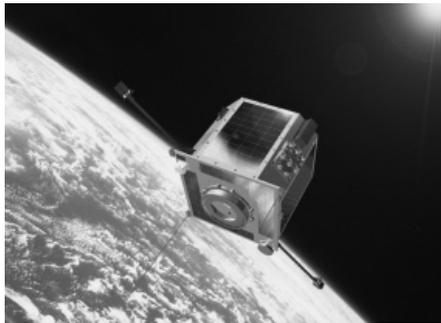
クリエイション・コア東大阪



今年1月には、モノづくりのまち東大阪市を世界にアピールする、中小企業などの高い技術を結集した人工衛星「まいど1号」が、鹿児島県の種子島宇宙センターから宇宙に飛び立ちました。

今後も、これに続く東大阪発の世界に誇る技術や製品が生まれることを期待しています。

まいど1号 (C)JAXA/SOHLA



東大阪市といえば、「ラグビーのまち」としても有名ですね。

そうですね。昭和4年に、日本最初のラグビー専用グラウンドとして「近鉄花園ラグビー場」が造られました。以来、約80年にわたって、まさに日本ラグビーの聖地として、高校生や大学生、社会人の大会、そして国際試合などが開催されてきました。

こうしたラグビーとのつながりをまちづくりに活かそうと、平成3年に「ラグビーのまち東大阪」を表明し、市民、企業、行政がスクラムを組んだ協働のまちづくりを基本に、様々な施策を進めています。そのシンボルとなるのが、本市のマスコットキャラ



近鉄花園ラグビー場



クターである「トライくん」です。職員の名刺や封筒等にトライくんを表示し、ラグビーのまちをPRするとともに、市のイメージアップを図っています。

トライくん



タックルからの「たくましさ・力強さ」、スクラムからの「連帯性・団結力」、ノーサイドからの「友情・すがすがしさ」といったラグビーがもつイメージをまちづくりに活かし、市民が我がふるさととして愛着と誇りのもてる個性と魅力に満ちた地域づくりを目指しています。

なるほど、地域の特性を活かしてまちづくりに取り組まれているのですね。まちづくりといえば、JRおおさか東線が開通しましたよね。

はい。昨年3月のおおさか東線の開業は、昭和27年の城東貨物線客車運行促進同盟会結成以来、半世紀以上にわたる市民たつての悲願でした。

同線は、これからの10年20年先を見通す社会のまちづくりにはなくてはならない都市基盤整備であり、放出駅から久宝寺駅までの鉄道広域ネットワーク網が整備されたことにより、交通手段の利便性が更に向上しました。

このおおさか東線と東西に交わる近鉄奈良線では連続立体交差事業が行われており、沿線の河内花園駅前市街地再開発事業が竣工するなど、新しいまちづくりが進んでいます。

また、来月3月20日には阪神なんば線が開通し、

おおさか東線開業記念式典



河内花園駅前



奈良、大阪、神戸を結ぶ広域的なネットワークが形成されることとなります。おおさか東線の放出～新大阪間についても早期開業に向け取り組んでいく中で、こうした一連の都市基盤整備を契機に、大阪北部や神戸方面とつながりを強めて、“東大阪ブランド”を積極的に売り込むとともに、多くの人を訪れる魅力あるまちにしていきたいと考えています。

その他のまちづくりに関する取組を教えてください。

まちづくりを進める上で、安全・安心なまちづくりが欠かせません。市民が安全で、安心して暮らせるよう災害に強いまちづくりに精力的に取り組んでおり、昨年4月には、市民安全の活動拠点となる東大阪市消防局（中消防署併設）が開庁しました。この庁舎には、最新設備を導入した高機能消防指令センターを備えています。

しかし、安全・安心なまちづくりは行政の取組だけでは実現できません。「自分たちのまちは自分たちで守る」という市民の自衛意識を高め、自主防災組織相互の連携を深め、災害時に的確で十分な対応ができるよう備えておかなければなりません。そのた

東大阪市消防局（中消防署併設）



め消防局には、防災について体験・学習ができる防災学習センターや、消防職員・団員の実践的な訓練及び市民に対して消防用設備の使用方法などの指導を行う訓練施設を併設し、市民の防災意識の啓発に努めています。

また、魅力と活力あふれる特色ある地域のまちづくりを推進していくためには、市民と共に考え、共に実践する「協働のまちづくり」の仕組みの構築が欠かせません。

現在、平成23年から32年まで間の本市のまちづくり計画となる「後期基本計画」の策定に取り組んでいますが、地域の課題や市民参加のまちづくりのあり方などをパネルディスカッションする地域シンポジウムを開催するなど、様々な市民参画の機会を設けています。

市内の地域ごとに定める「地域別計画」の検討にあたっては、地域固有の歴史や文化的な個性等の地域特性を発揮して特色あるまちづくりを進めるために、当該地域の市民によって構成される「地域別ワークショップ」を開催し、地域の視点で取り組んでいます。

住民協働を進め地域の視点を反映させながら、まちづくりにつなげているのですね。

最後になりますが、今後の抱負を教えてください。

今後、市民ニーズはますます個別化・多様化するとともに、量的な増大が予想されています。限られた財源の中で、施策を実施していくには「選択と集中」が不可欠であり、我慢の財政運営を覚悟せざるを得ません。

しかし、困難な時代だからこそ、市の将来像を見据え、行財政改革を果敢に断行するとともに、一つひとつの効果的な施策を確実に実施していかなければなりません。小を積み重ね大を為すことで、輝かしい「活力ある東大阪の再生」の実現するよう、今後も全力で取り組んでいきます。

「活力ある東大阪の再生」の実現に向けて一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。